



## 池袋営業統括センター第5回定期大会開催

2023年10月5日JR東日本輸送サービス労働組合東京地本赤羽事務所にて池袋営業統括センター第5回定期大会が行われ、職場課題など活発な議論が行われました。



### 第5回定期大会

JR東日本輸送サービス労働組合  
営業統括センター分會

- ◆南出札閉鎖により中央窓口は常に行列ができています。社員もお客さまも疲弊している。窓口も後方も要員が足りず手薄。代理は手一杯。営業事故に繋がるリスクが高い。企画業務を並行して行える状態ではない。
- ◆教育体制が手薄。業務知識をチェックリストに埋めるだけの状態。教える側も激務に追われて丁寧に教えることが困難。要員不足で教育担当の社員の手配がつかなかった際に無理矢理1人勤務にさせる事もあった。取り扱いが変更になる際も会社は「タブレットを見てください」のみ。勉強会でも動画を観てタブレットで理解度確認を行うが0点でも問題無しの状態。加えて各勉強会の受講や資料作りも手持ち時間でやるよう指示され負担が増すばかり。
- ◆線路内拾得時に接近した列車から汽笛吹鳴を受けた事象が発生。社員の命をあわや失う危険な寸前だった。列車見張り員訓練を行っているが、見張りのやり方が中心となっているため、役割と本質の理解度が深まっていない。勉強会もタブレットに目を通して理解度確認を行う個人任せ。教育の希薄化が大きな課題。
- ◆信号業務で見習いが3徹で1本にさせられた。異常時の入出区・番線変更で自分で判断しないとイケない。ダイヤ改正での入出区ダイヤの作成は信号を知らないと出来ない。経験を積みつつ特情を覚えてこそ成り立つ仕事。
- ◆ロッカーのある駅で着替えて勤務駅へ向かうが、この移動時間は労働時間でないと会社は主張している。現状ほとんどの社員が早目に出勤して着替えて勤務駅へ向かう不便さを強いられている。

働く者の労働条件向上・環境改善に努めていきます！！